

【県外研修会参加費等助成事業 研修報告】

ビジネス・ライブラリアン講習会に参加して

鳥取県立図書館 中尾有希子

平成29年2月27日～3月1日、ビジネス支援図書館推進協議会主催の「第15回ビジネス・ライブラリアン講習会（東京開催）」に参加した。受講を薦められた時、これまでビジネス支援に関わっていない私は、ビジネス支援は難しい業務という思いがあり、「本当に私が行ってよいのか、学んだことが生かせるのか」という不安しかなかった。しかし、自分に不足しているレファレンスのための知識や方法、企画力、発表力等、多くのことが学べるよい機会だと思った。

受講生は全国の都府県立、市町村立図書館等から45名。当館からは私が21人目で、1館当たりの受講者数は当館が全国1位である。研修内容は、図書館員の意識改革・意識向上のための講義、レファレンスサービス、マーケティング、PRの手法等知識や技術を高める講義、紫波町・小山町のビジネス支援実践事例、事業企画と予算獲得のためのプレゼンテーション演習等で、バラエティに富み、どれも受講生を激励してくれるものだった。

「人脈づくり」もこの講習会の大きな目的だが、名刺交換や演習等により、素晴らしい講師や全国で頑張っている意欲的な司書等多くの方々と情報交換できたことは、発見や学ぶことが非常に多く、大きな収穫となった。

以下は、今回の講習会で得た私が意識しておきたいポイントである。

- ① 地方にこそ質の高い図書館が必要。東京に行かなくても同等の情報が入手できるように。これからは、自己判断、自己責任の時代であり、情報がないと判断を誤ってしまう。図書館は情報収集できる場所という確信を図書館員が持つこと。
- ② 地場産業について勉強する。地域の産業は何か、どんな状況なのか、課題は何かについて調べ、図書館ができることは何かについて考える。ビジネス支援は地域振興に直結する。
- ③ 事業を進めるためには、他機関との連携が重要である。コミュニケーションを取り、つながりを持ち、図書館ができることを繰り返し伝えていくこと。つながりがつながりをよび、地域全体がつながり、win-winの関係ができる。
- ④ 新聞を読み、切り抜きし、メモを取る（スマホ機能の活用）。自分の関心事項や事業アイデア関連キーワードを新聞記事データベースで検索するなどして、情報収集していく。
- ⑤ ホームページに出している情報の違いで利用者から寄せられる質問が違ってくる。図書館が力を入れている分野の情報を発信していくこと。
- ⑥ 日頃のレファレンス対応等から、利用者のニーズを捉え、図書館にできることは何かを考え、メモしておく。そして、予算要求につなげる。
- ⑦ 専門図書館について情報収集し、実際に見学し、レファレンス等に活用する。
- ⑧ 学んだことを自分の頭の中だけにとどめておいては意味がない。必要なのは実行力、行動力。
- ⑨ 新しい取り組みにより、図書館員の意識が変わる。「ニーズに対応すること」を通じてしか図書館員は変わらない。理屈では変わらない。
- ⑩ 地域の活動や研究会に参加するなど、学びを継続し、自信を持つこと。

講義の中で当館が先進事例として紹介されることや、名刺交換の度に「鳥取県立図書館は素晴らしいですね」と声をかけられることが多く、当館のブランド力を実感し、身の引き締まる思いがした。そして、改めて当館に誇りを持った。これに恥じないよう、今回得たことを生かして自己研鑽し、自分ができることを見つけ実行することが必要と感じている。